



# OVERSEAS

## Kingdom of Thailand

— タイ王国 —

海外で活躍する建設コンサルタント技術者が、独特の目線で各国を紹介するコーナーです。

### 海外事情



## いまさらながら、タイ・バンコク情報！



**久米 智久** KUME Tomohisa  
 いであ株式会社 / 環境測定事業部環境化学部  
 (兼) 海外事業戦略室 IDEA R&D Center / 主任研究員

もはや日本の皆さんには、観光、留学、出張、駐在等でお馴染みなタイ王国の首都バンコクです。いまさら感がありますが、いざ住んでみると身近なところに気になることも出てくるものです。そんな生活にかかわる情報を紹介します。まずはちょっとしたタイの豆知識から。また、私が個人的に感じた生活情報も紹介します。もしかしたら皆さんとは感じ方が異なるかもしれませんが、参考程度に読んでいただければ幸いです。なお、記載数値は2019年8月当時のものです。

### 日本の皇室とタイの王族の関係

タイは1238年に「スコタイ朝」が統一王朝として建国して以来の王政国家で、現在は立憲君主制です。日本の皇室とタイの現王朝であるチャクリー王族は、特に近代では天皇の即位とタイ国王の即位(戴冠)がほぼ同じ頃である等の縁から、長く親密な関係が続いています。

両国の即位を比較すると次のようになります。①1867年の明治天皇と1868年のラーマ5世。②1912年の大正天皇と1910年のラーマ6世。③

1926年の昭和天皇と1925年のラーマ7世。④2019年の今上天皇と2016年のラーマ10世。

ちなみに皆さんがよくご存知の山田長政は、タイの前王朝「アユタヤ朝」時代の偉人です。

### タイの国民性

「微笑の国」と呼ばれるだけあり、人柄は穏やかで親切な方が多いように感じます。乗り物では率先して老人や子供に席を譲ります。男女ともに比較的勤勉ですが、個人的な感想を言えば、タイの経済は女性で回っているのではないかと思うほどタイの女性は働き者です。真夜中の道路工事でも働く女性を見かけます。

もう一つの面としては、かつて中近世においてはスペインに、近代ではイギリス、フランス、日本等に振り回されつつも現代まで生き抜いた、東南アジア唯一の独立国という実績が示すように、強かで立ち回りが巧みな国民性であるともいわれています。

### タイ語

「ภาษาไทย パサ・タイ(『タイ語のこと』)」の文法は、時には英語、時には日本語に似ており比較的身近に感じました。ある程度の単語力が身についてくると、少しずつ単語を聞き取れるようになってきます。また、片言ながら最低限のサバイバルワードは比較的早く話せるようになります。

ただし長母音だけでも9個あり、他にも二重母音が3個、発音が5種類あるので、私はこの微妙な発音の違いに苦戦しています。そしてさらに「読み書き」は難しいです。ましてやフォントが違うとまったく読めなくなってしまいます。例えば新聞や教科書は読める方でも街の看板は読めないこともあります。

でも「สวัสดีครับ サワディ・クラップ(一日中使える挨拶)」「ขอบคุณครับ コップン・クラップ(ありがとう)」さえ覚えれば「ไม่ เป็นไร ไม เบนไร(問題ない)」。ちなみに、語尾に付いているのは丁寧語で、男性は「クラップ」(クトラがくっついて「カップ」と聞こえる)、女性は「カー」です。



写真1 タイの大気観測所



写真3 おしゃれなカフェ



写真2 メコン川に投棄されたプラスチック類

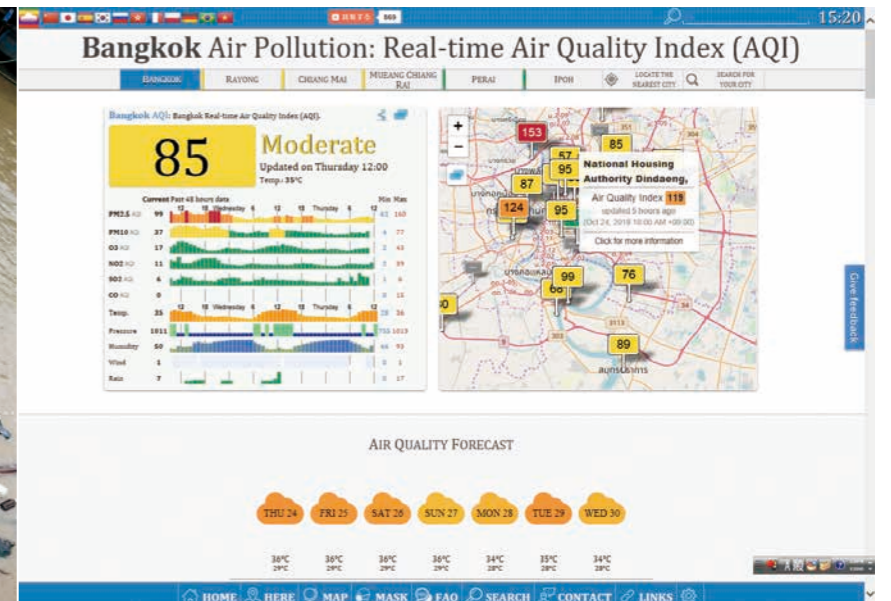


図1 Air Quality Indexのホームページ (https://aqicn.org/city/bangkok/)

### 環境問題

東南アジアでも環境問題は差し迫った課題となっており、タイはインドネシア等と並んで精力的に取り組んでいる国の一つです。しかしながらPM2.5による大気汚染の問題については、世界中でニュースにもなったほど深刻であり、根本的な解決には至っていません。日本も対策の支援をしておりますが、まだまだといった状況です。Air Quality Index(空気質指数)のリアルタイム情報は、ホームページで公開されています。

またタイでは、2019年にプラスチックごみ削減対策のロードマップを策定し、この問題に取り組み始めています。2019年3月に総選挙が行われ、数ヶ月かけて軍事政権からのパトタッチを進めているところですが、何しろ新政府にとっては組閣やら予算作りやらと初めてのことばかりのため、本格的な始動にかなり時間を要していると聞きます。「投票翌日には選挙結果がわかり、一週間程度で組閣される日本がうらやましい」と、タイの友人は愚痴っております。

### バンコクの衣食住

バンコクの気候は「暑い」「とても暑い」「とてもとても暑い」の三通りと、タイの方はよく言いますが、まさにその通りです。日差しが強いので一年中日傘が必須である一方、レストランやスーパー、会議室、車両等は冷房が強すぎて、上着無しではいられないほどです。

バンコクの街並みの第一印象は「まるで高度経済成長期の東京のよう」でした。大きなショッピングセンターや高層マンションが次々と建設され、海外ブランドが進出し、鉄道



写真4 ナイトマーケット



写真5 ナイトマーケットの料理

が延伸し、都心部の道路では大渋滞が頻繁に起きる。屋台が規制され始め、24時間営業のコンビニエンスストアが立ち並ぶ。繁栄を謳歌しているかのようです。ことバンコク都心部に限っては、インスタ映えしそうなおしゃれなカフェや甘味処が各所にあり、女子に大人気。先進国のように衣食住のすべてにおいて便利で快適です。

「衣」については、街で見かける大衆スーパーで安物のシャツを購入すると、安物買いの銭失いになることも。長く身に着けるものに関しては、できれば安さにつられることなく、それなりの価格のものを購入することをお勧めします。かの有名なタイパンツは、ユニセックスな気軽に着られる国民服です。

「食」については、現地食は感覚的には「辛い、すっぱい、甘い」です。私のように「プリック」と「パクチャー」大好きな方には、地元屋台のさまざまなソウルフードに出会える楽しみがあります。一方、外国人向けに味付けをマイルドにしてくれるお店もあり、辛い味が苦手な方はそのようなお店を探してみてください。値段は少々高くなりますが、それでも日本よりは安いので欧米人や日本人でにぎわっています。

バンコクには日本食を多く取り扱



写真6 海辺の市場の海産物店



写真7 タイ舞踊

っているスーパーや日本資本のレストランも数多くありますので、「どうしても和食!」という方にとっても事欠きません。それに日本に比べて小ぶりですが、おすしも屋台にて一貫単位で売っています。ちなみに、納豆一つにしても日本の三倍くらいの価格(三個一パック約300円)ですので、和食を自炊してもあまり安く仕上がることはありません。タイ食を屋台で食べる、例えばラーメン(約150円)などが一番安く仕上がります。

そうそう、水道水は飲めません。特に受水槽が屋上にある場合、夕方には温水が出てきます。

「住」については、高層マンションの建設ラッシュなので、新築でもお手頃価格で購入できます。都心でも築浅でなければわりとお手ごろな物件もありますし、賃貸でもお手ごろ価格です。セキュリティがしっかりしているところであれば、共用部は管

理が行き届いています。そして日本人滞在者の多い地域には、日本人駐在員が残っていた日本製品を取り扱う中古品店があります。炊飯器などは新品のタイ製品を買うより品質がよいものがあるので、中古でも気にならない方には狙い目です。

#### 困った…

そんな快適なバンコクですが、我々にとってはいかんせん外国です。日本と異なるいろいろな「困った」がありました。そんな私の小さな「困った」の数々を明け透けに列記していきます。

まずは「トイレ」。街中にトイレが少ない。たとえあっても、紙がなく手桶で水洗い…。身近なBTS(都心を走る鉄道)の駅やコンビニエ



写真8 タイのトイレ

ストアにはトイレはありません。よって、どこにきれいなトイレがあるか常に把握して行動していました。ちなみに、BTSでは緊急事態の場合、職員用のトイレを借りることができるらしいです。

都心のショッピングモールには、きれいなウォシュレットトイレが完備しているところが多いです。ガソリンスタンドや郊外の食堂では、手桶と水槽しか実装されていないところも多いです。そんなときは、まずは水槽から水を汲んで、自分の出したモノをきれいに流してからお尻洗いに専念しましょう。そうでないと洗っている最中に、便器からの水の跳ね返りが気になります。なお、下水道が完備していないので、紙は流してはいけません。最悪、詰まります。専用の容器に捨ててください。容器が備えてあればいいですけど。

つぎに「電話」。携帯電話の普及が早く、公衆電話は次々撤去されており、使えそうな公衆電話も「硬貨が投入口に詰まっていて…」という状態です。タイで使えるSIMとSIMフリー携帯電話(もしくは携帯型のWiFi)を準備しておきましょう。長期滞在であればメジャーキャリア(AIS、True等)のプリペイドSIMが便利です。使う分だけ事前にチャージすれば一年間有効です。さらにさまざまな通信割引パッケージ(7日間パック、30日間パック等)が携帯電話からのコード入力だけで契約

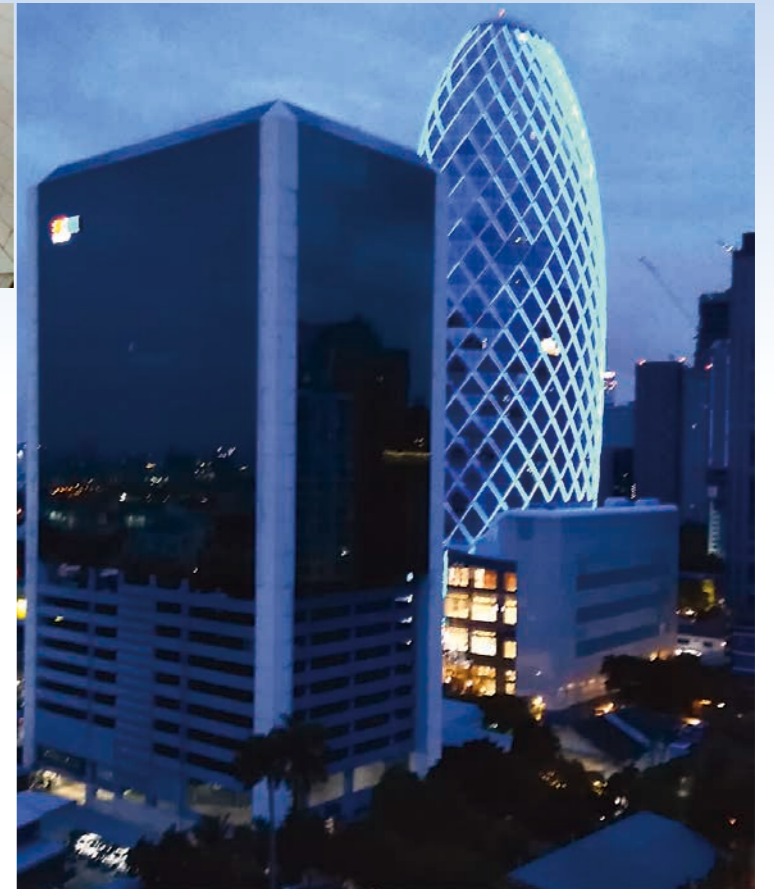


写真9 高層ビル

可能なので、使い方にあわせてお得なコースをその都度選択できます。

そしてお付き合いに欠かせない「お酒」。お酒の買えない時間帯があります。うっかり買いに行くと出直さなければならぬ羽目に。時間ぎりぎりなら店員に会計を急かされる事もあります。さらに、丸々24時間飲めない禁酒日も年に数日あります。禁酒日はホテルのバーでもお酒を出してくれません。禁酒日の前日の繁華街は早仕舞いになります。自宅でも呑むのは(バレなければ?)自由かもしれませんが、現地の文化を体感してみるのもいいかもしれません。

最後に日本とは違う「地図検索」。日本と異なり住所表記が「通りの名前」だけのところが多いため、たどり着くにはそれ相応の努力を要します。日本の地名に例えたら「青山通

り」と書いてあるだけのようなものです。有名な建物であれば建物名で検索できますが、無名の場合「青山通り」の端から端まで歩かないと目的地が見つかりません。交通量の多い道路では両方をいっぺんに確認できないから労力二倍です。友人宅等を訪れる際は、まずはランドマークで待ち合わせをすることをお勧めします。

半分くらいは滞在中の愚痴になってしまい、エッセイとして成り立っていないかもしれませんが、「住めば都」なので、これから行かれる方は、日本との多少の違いは加味した上でバンコクライフを楽しんでください。

<写真提供>  
久米智久